

| | | | | | | | |
|-----------|--|-------|--|-------|-----|-----|-------------------|
| 番号 | H22-05 | 課題名 | 岡山県における食中毒および感染症起因菌の疫学的解析 (1)下痢症・呼吸器感染症起因菌の疫学調査と検査法の検討 (2)リステリアおよびサルモネラの疫学調査と汚染防止対策の検討 | | | | |
| 期間 | H20 ~ 24 | 担当部課室 | 保健科学部細菌科 | | | | |
| 計画からの状況変化 | <p>1 課題設定の背景 (状況変化なし)</p> <p>2 試験研究の概要 ・実施体制 3名(薬剤師2名、獣医師1名)、年間従事人数:0.6人分 昨年度薬剤師1名、獣医師2名が、人事異動により本年度は上記のように変更 ・21年度研究費予算が半減</p> <p>3 成果の活用・発展性 レジオネラ症防止指針第3版に厚労省研究班で検討した迅速検査法が掲載された。</p> | | | | | | |
| 進捗状況 | <p>1 年度別進捗状況</p> <p>[H20年度] 腸管出血性大腸菌O157のIS-Printing systemの有用性が確認された。県内の老人福祉施設で発生したレジオネラ集団事例の感染源調査に、遺伝子による迅速検査法を活用し、感染源が井戸水であることを示唆した。(病原微生物検出情報掲載) 犬および牛のコリネバクテリウム属菌保菌状況を調査したが、いずれも陰性であった。県内の食鳥処理場で採取した屠体・器具等の拭き取り検体から、リステリアおよびサルモネラの汚染状況を調査した結果、屠体の水洗・消毒が汚染減少に有効であった。<i>L.monocytogenes</i>の検査で、活性炭入り卵黄加BHI寒天が有用であることを確認した。人由来のサルモネラ株では、例年どおりエンテリティディスの検出率が高かった。</p> <p>[H21年度] 腸管出血性大腸菌O157のIS-Printing systemについて、マイクロチップ電気泳動法を応用したが、実用化にはさらに検討が必要であると思われた。厚労省研究班で検討しているレジオネラの迅速検査法が、本年度改訂されたレジオネラ症防止指針第3版に掲載された。更に高感度の逆転写後のリアルタイムPCR法の有用性が確認された。犬、猫、牛のコリネバクテリウム属菌保菌状況を調査し、猫からジフテリア毒素産生性<i>C.ulcerans</i>が検出された。牛直腸便等599検体中、<i>L.monocytogenes</i>が22検体(3.7%)検出された。サルモネラ菌株17株を収集し、ヒト分離株ではエンテリティディスが、鶏肉分離株ではインファンティスが多かった。</p> <p>2 目標達成に向けての阻害要因の有無 無</p> | | | | | | |
| 継続実施の必要性 | <p>1 継続実施の必要性 腸管出血性大腸菌、サルモネラ、レジオネラによる感染症は毎年発生しており、これまでの調査でコリネバクテリウムやリステリアの汚染実態が少ずつ明らかになっている。これらの病原菌による感染を予防するために、引き続き疫学調査や検査法の検討が必要である。</p> <p>2 継続実施に当たっての課題及び改善策 感染症の発生予防と感染拡大防止のためには、行政部門へ迅速な疫学情報の還元が必要であり、行政部門とより一体化した調査を実施して、相互の情報の共有を図る必要がある。</p> | | | | | | |
| 実績・計 | 実施内容年度 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | 総事業費 単位: 千円 |
| | (1)下痢症等 | | | | | | |
| | (2)リステリア等 | | | | | | |
| | 実績・計画事業費 | 1,955 | 3,518 | 2919+ | | | |
| | 一般財源 | 455 | 195 | 169 | | | |
| | 外部資金等 | 1,500 | 3,323 | 2750+ | | | |
| | 人件費 | 4,800 | 4,800 | 4,800 | | | |
| | 総事業コスト | 6,755 | 8,318 | 7719+ | | | |